

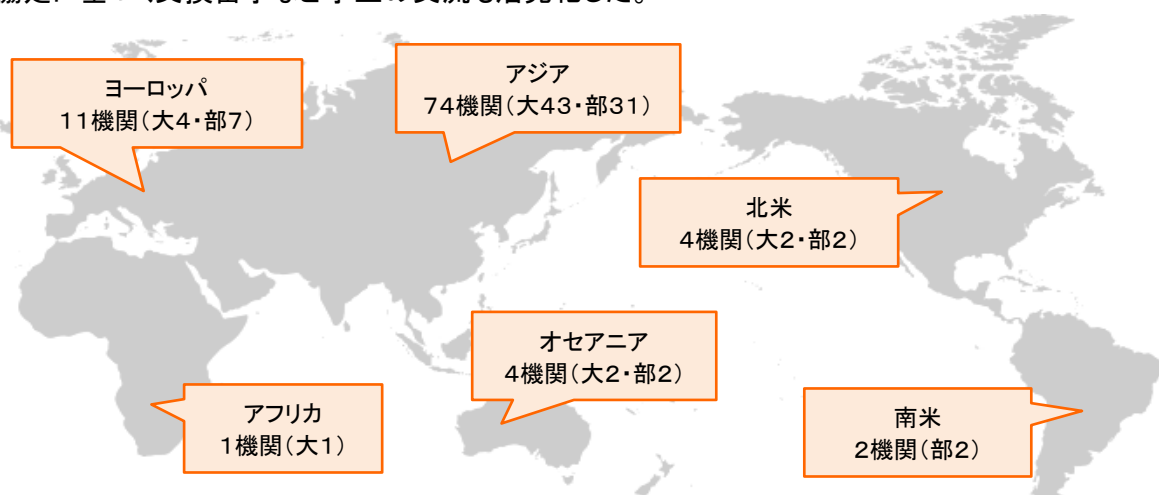
国際交流の本格化

1950年代から日本経済は急速な経済成長を遂げ、80年代のバブル経済によって絶頂期を迎える。経済の発展は世界交流を生み、日中国交の回復など、「国際化」が急速に進んでいった。

本学では、昭和58(1983)年6月に「山口大学と山東大学との学術交流協定」を締結し、学術を中心とした国際交流が本格的にスタートした。平成に入ると、世界各地の大学との大学間・部局間協定が相次ぎ、学術交流協定に基づく交換留学など学生の交流も活発化した。



山東大学との協定調印式



学術交流協定を締結している機関(平成26年5月1日時点) ※()内の大は大学間、部は部局間協定
現在、世界各地の96機関と交流協定を締結している。

法人化以降、大学の国際化を一層推進するため平成20年に「国際戦略本部」を設置した。また、海外の交流協定校との連携協力によってサテライトオフィスを開設し、留学生募集や共同研究拠点、共同授業提供などの事業を展開している。

(右)海外の国際連携オフィス

北京国際連携オフィス
山東国際連携オフィス
パリ国際連携オフィス
ジョグジャカルタ国際連携オフィス
台湾国際連携オフィス
クアラルンプール国際連携オフィス



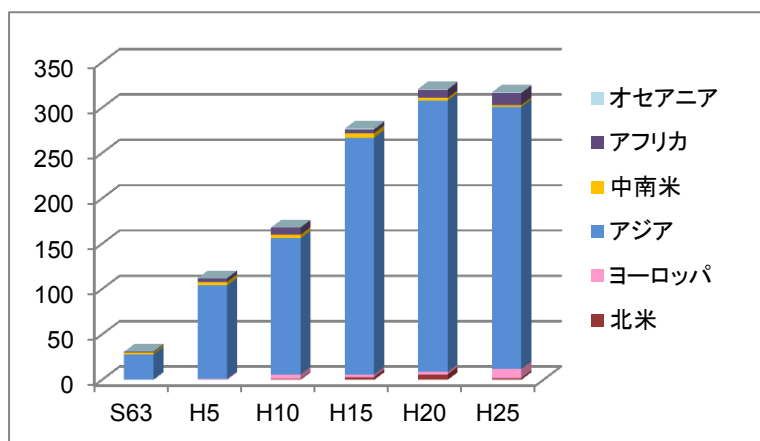
ガジャマダ大学内の国際連携オフィスで開催された「STUDY IN JAPAN」セミナー

外国人留学生

昭和56年に山東大学との間で学生の交換留学が始まった。昭和58年、政府の「留学生10万人計画」を受けて、留学生受入は加速し、本学の留学生数も増加の一途を辿った。現在では、約30カ国から300名を超える留学生が学んでいるが、新たに政府が策定した「留学生30万人計画」に沿って、更なる留学生受入を図る予定である。



書道に挑戦



外国人留学生数の推移

全体の約9割がアジアからの留学生となっている。そのうち、過去最も受け入れ数が多いのは中国出身者。平成22年にインドネシアの2大学に国際連携オフィスを設置したことにより、インドネシアからの留学生も増加した。



サマープログラムに参加した
海外の学生たち

夏休みに留学生センターが主催する短期留学プログラム。本学では、日本語や日本文化の理解を深めてもらうことを目的としている。最終日には浴衣を着て、『山口七夕ちょうちん祭』を楽しむのが恒例となっている。

国際交流会館

外国人留学生や研究者の受け入れ増加に伴い、受け入れ態勢の整備・充実も図られた。昭和63年、吉田キャンパスに山口国際交流会館が、平成9年に常盤キャンパスに宇部国際交流会館が開設された。また、平成20年には吉田キャンパスに国際交流会館2号館が完成し、本学の留学生用宿舎は、吉田キャンパス71部屋と常盤キャンパス47部屋を合わせ、118部屋となっている。



国際交流会館1号館
(吉田キャンパス)

グローバルな人材の育成

平成27年度に、「国際総合科学部」の開設を予定している。これは、グローバル化に対応できる高い英語力を持ち、かつ科学技術が関与した諸問題に対して複眼的、総合的に理解し、解決できる人材の育成を目指すものである。